

## 1. 基本方針について

生活にケアが寄り添い、“特別”ではなく普通の暮らし（わが家）と一緒に築きあげていくことを目標に、生活を大切にしてきました。

一緒に笑い、悲しみを分かち合える、そんな時間を頂けたことに感謝したい1年間だったと思います。

ご利用者の方が居てくれたからこそ、私たちのケアができ、また、ご家族の方々からこの施設を選んで良かったと評価して頂けたことが、とても励みになりました。

当たり前前のケアがごく普通に行える「気づき」には、まだまだ課題はありますが、今後も利用者主体でのケアが行えるよう継続していきたいと思います。

## 2. 具体的な施策について

### (1) 「ご家族等との繋がり」をキーワードに年間事業計画を立て、生活支援の展開

#### ① 誕生会の取り組み

ア 一年に1回の記念日をどのように過ごして頂くかが課題でした。

2ヶ月前からご家族の方と連絡を取り、一緒にお祝いの計画を立ててきました。結果、自宅へ5名の方が、自宅以外へ5名の方がご家族と過ごすことができました。

始めは、「今まで通り」との返事も多かったが、中には「誕生日のお祝いを自宅で過ごしたかったが、送迎が心配であった。」との相談もあり、そこで、自宅までの送迎をすることで、負担がなく支援することができました。

どのご家族も、久しぶりに帰ったときは、心温かく配偶者や子供達、兄弟、お孫さんまで集まり迎えて下さいました。

自宅での過ごし方は、思い思いでしたが、亡くなられた配偶者の仏壇に焼香ができたとの話も聞かれ、ご家族の温かさが感じられました。

外出された方は、ご家族の方と共に、大好きなお寿司でお祝いをされた方や、釣りやドライブを楽しんで戻られたようです。

施設では行うことのできない、家庭ならではのあたり前のことを、誕生日の記念日にできたことは、家庭に優る物はないと感じました。今後も、誕生日という記念日を大切に過ごして頂けるように、更にご家族との連絡を密にしていきたいと思えます。

イ ホームでの誕生日のお祝いも、楽しく心に残る物としてきました。

例年通り、厨房手作りのケーキでお祝いすることができました。ご家族の方には大変好評で、介護職員だけがご家族からの喜びのお礼をされるのは申し訳ないとのことで、厨房職員にケーキを届けて頂き一緒にお祝いすることができました。

#### ② 家族へのお便りへの取り組み

ア 2ヶ月に1回、手紙だけでなく、写真を添える等の工夫をしながら、ご家族の方へ近況をお知らせしています。ご家族の方からは「送られてきた手紙付きの写真を家に貼ってある。」等の返事も頂き、ご家族から離れることがないように、今後も続けていきたいと思えます。

#### ③ 生活の楽しみへの支援

ア 「できない」から「できる」への視点の転換の取り組みでは、残された機能を現状維持でき、生活の中で負担なく過ごされるよう支援してきました。

午前11時から30分間、レクリエーションで体を動かし声を出して笑える時間を設けるため、ボール運動を始めとし、風船バレーや魚釣りゲーム等、競い合いながらも自然と体が動かせるゲームを中心に行ってきました。

また、レクリエーションの最後には、食前体操を取り入れ、美味しくスムーズな食事ができるように努めてきました。

イ 「～をしたい」との希望を聞けるよう心掛け、行事や外出等に楽しみをもてるよう、生活行為を介護から支援へ換えられるようにしてきました。

ウ 「今日は歩けた」「今日は全部食べられた」等と、一日一日の生活を楽しみにすることで、達成感を共感して頂けるようにしてきました。

全ての方ができた状態ではありませんが、ちょっとした喜びが持てることで、日々の楽しみを見出せるように努めてきました。

#### ④ ご利用者の‘顔’を見て行うケアの取り組み

ア 業務優先とならないように、再度、個別のケアを見直してきました。また、専門的ケア委員会（食事・入浴・排泄・口腔ケア）では、率先して勉強会を行い、即実践することで、ケアの見直しを行ってきました。

現在のケアがマンネリ化しないよう、常に勉強会を行うことで知識向上と意識が高められてきたと思います

#### ⑤ 重度化における個別ケアと終末期ケアの支援

ア 一年間に14名の方が退居されました。ホームでお見送りすることは簡単なことではありませんでしたが、その人が最期までその人らしく、過ごして頂けるよう努めてきました。

「今日から終末ケアではなく、その人らしく最後まで」の気持ちを大切に、日々後悔しないケアに心掛けました。「プリンが一口食べられた」「お風呂に入れてあげたい」「淋しくないように皆の声を聞いていて欲しい」「体の痛みをどうにかしてあげたい」等、一緒に過ごしてきた家族同然の気持ちで、毎日の変化に共に喜び、共に涙してきました。しかし、最期のお別れは淋しいものです。最期の旅立ちに一晚中好きな曲をかけてお別れすることもできました。

ホームでのお別れ会では、生活を共にしたご利用者はもちろんのこと、ご家族の方や職員が一人ひとり献花し焼香にてお別れをしてきました。旅立たれた顔を見ながら、今までのケアが本当に良かったのか、もっと何かできたのではないかなど、反省の時間だと思っています。そして、最期の大切な時間を一緒に過ごさせて頂きとても感謝しています。

## (2) 新規事業

### ① 外出への支援

外出できる期間が季節的に短く、また、健康状態により外出への支援は回数を増やすことはできませんでしたが、季節の変化を見て頂けるよう、できるだけ表にできるように努めてきました。次年度も、季節を感じて頂くため積極的に外出支援を行い、また、地域での行事や買い物等で、社会参加を図れるようにしていきたいと思っています。

### ② 家族・地域の人とのふれあい

ホーム敬老会には、村婦人会の方々がボランティアに来所され、村の敬老会に出

席できない地域の方が見に来て下さるようになり、広い東棟ホールが、とても狭く感じられるくらい賑やかな一日となりました。また、なかには面会される方もおられ、踊りを通じて、地域の方と触れ合う場の提供ができたと思います。

### ③ 入浴介助の見直し

入浴委員会を中心に、入浴の考え方や方法を見直してきました。

実際に職員が入浴体験を行い、機械浴、個浴（一人浴）のイメージや体への負担等を検討しました。

検討結果、家庭と同様のお風呂に入って頂くためにはどのようにすればよいのかを考え、個浴の場合、2人対応の入浴方法へ移行することができました。また、そのためには安全な移乗方法が必要となり、トランスファの勉強会も重ねて行ってきました。

## (3) 各委員会の充実

### ① 委員会の必要性と目的を明確にし、現在の業務、ケアを充実させるため、委員会に於いて専門的知識を習得し、委員が中心となり取り組めるようにしてきました。

#### ア 口腔ケア委員会

各家から対象者を絞り一年間を通じて経過観察を行いました。洗浄方法やマッサージ方法、その時の状況などを把握することで、より多くの情報を知ることができました。また、委員会独自の食前体操を考え、レクの時間を利用して実施してきました。

#### イ 入浴委員会

職員の入浴体験から、機械浴の機械音のイメージや水圧による体への負担等から、できるだけ個浴で行い、且つ安心感をえられるような入浴方法が検討され、個々の状態にあった入浴をできるようにしてきました。

始めは、職員間で安全性や効率性等から、個別浴への移行に抵抗がありましたが、個浴はゆっくり向き合える時間があることや、入浴している表情がとっても豊かであることから、介助した職員から「入れて良かった」等と評価が広がりました。

また、自力歩行が可能な方を対象に、一般浴を開放「お風呂の日」とし、一般温泉気分を味わえるように、ゆず風呂で肌と肌のお付き合い交流を図りました。初めての試みで不安もありましたが、お湯に浸かり普段は見せることのない表情が、みられ今後も継続できるようにしたいと思います。

#### ウ 排泄委員会

排泄環境を整えること（排泄勉強会・体位交換勉強会・排泄アセスメント表作成）に取り組みました。オムツを交換してきれいにするのはもちろん「出すことにこだわる」ことの大切さに気づきました。その人を知ることが大切であり、排泄パターンの把握、その人に合った支援を行うことで快適に過ごして頂けるようにしました。そこで、使用しているパットの種類やコスト面を職員全体が把握でき、一人ひとりに合ったオムツ選びができることで、無駄な使用をなくしてきました。

#### エ 行事・環境委員会

《行事 お花見会、夏祭り、敬老会、運動会、芋煮会》

次年度より、行事によっては、西・東棟が合同で行われることが最後ということもあり、賑やかに行うことができました。委員のみでは行えず他職種の職員の

協力にて行えました。

行事の情報がはいると、表情は違い、楽しみに待ってくださる様子が伺えます。マンネリした生活に楽しみが増えるように今後も検討していきたいと思えます。

《環境 畑作り準備・後片付け、ワックス掛け3回、カーテン洗濯の声かけ》

今年度より、委員会が声かけをし、職員にて行う内容となりましたが、周知徹底や準備不十分で月遅れになったこともあったものの、年間計画は行うことができました。今後、車椅子・ベッドまわりの清掃に声かけをしていきたいと思えます。

#### オ リスクマネジメント委員会

毎月のアクシデントを集計し、その起因や時間帯等について職員会議で報告、また、注意内容を声かけしてきました。

月毎にスローガンを立て、普段のケアでも気配りができるようにし、迷惑をかけないよう努めてきました。アクシデント報告が多い内容については、移乗時の事故軽減のため移乗（トランスファ）勉強会を毎月定期的に行うことで、職員の技術向上に繋がりましたが、勉強会の間隔が長くなると、移乗方法を忘れてしまうこともあり、今後も継続事業としていきたいと思えます。

#### カ 食事委員会

「食べることの楽しみを大切にしていこう」ことを目標に、軟菜食や地産地消の取り組み、行事食、誕生食、出張料理に取り組んできました。特に軟菜食は、今までソフト食に力を入れてきた分、簡単に取り入れることができませんでした。きざみ食は、見た目、安全性を考えたときに、「食欲をそそる」ものではないことから、食事メニューへのこだわりをもつことにしてきました。また、地産地消も、村内の自家販売から購入し、季節が感じられる食材を調理して頂きました。

食に関しては、まだまだ、ご利用者に合った食事内容には難しい面もありますが、次年度では特に食事への取り組みをしていきたいと思えます。

#### キ 感染症委員会

心配される感染及び感染源、予防等について、その対策等を委員で検討してきました。また、ご利用者はもちろん職員が自ら予防に努め意識できるように、マニュアル作成や、見やすい場所にポスターを掲示し周知することができました。

今後は、感染源（嘔吐物や排泄物）の処理方法等の実技も取り入れたいと思えます。

#### ク 家長会議

月1回の定例会とし、今年度は、職員の意識向上への取り組みに力を入れ、「言葉使い」「電話での対応」「福祉用具の種類と活用方法」についてのマニュアル作成をしてきました。今までは、各家での現況や取り組みについての相談の場になっていましたが、共有の問題として後退しないように声かけ合い、利用者主体のケアを目指した会議になってきました。

次年度、増床にて職員が増えることもあり、さらに新職員の育成に努めていきたいと思えます。

#### ケ 家内会議

月1回、各家の家内会議では、10:00～11:30と時間を定め、短時間で検討し合えるようにし、現在の生活、食事、入浴、排泄等に焦点をあて相談してきました。一人ひとりの変化やケア内容の会議を行うことで、職員も個別に捉えることができ、日々のケアに活かせることができました。

また、当月の取り組みが話し合われることで、変則勤務でも職員間の意思統一

ができ、申し送りの徹底にも繋がった。

コ 職員会議

月1回、医務室、厨房、事務室、介護職員の出席にて、「各家の現況報告と取り組みについて」「各委員会報告」「厨房会議報告」「研修報告」「なんでも勉強会」を中心に行い、一丸となって取り組んできました。

サ 家向上委員会

利用者主体の生活ケアを目標に、意識向上・生活支援・食事推進の分野で検討してきました。その都度、施設全体で抱えている問題について、解決策や現在のケア維持、向上にむけ後退しない検討会議にできました。

職員においても働きやすい環境づくりにし、共に安心して過ごせるように努めてきました。

また、家向上委員会での決定した事項については周知徹底し、全職員が取り組める方向を導きだしてきました。今後も、施設全体への広い視野で物事が判断できるようにし、生活の場への取り組みをしていきたいと思ひます。

《一年を振り返って》

各家で事業計画を立て、如何にご利用者と過ごし、どのように支援していくかのケアに心掛けてきましたが、まだまだ、申し訳ないと思える場面が数多くあります。

当施設を選んできて頂いたことに感謝しながら、「この施設を選んで良かった」と思って頂けるように、介護職の原点である「その人らしい毎日」「自宅に居た時と同じような暮らしを」「人生の最期まで、あたりまえの生活を」をごく普通にできるよう、今後も取り組んでいきたいと思ひます。

## 1. 生活全般について

- ① 家目標は「寄り添い上手」になることであり、ゆったりと楽しめる生活を目指すことでした。

特徴をつかむことができるにつれ、隣に座ってゆっくりと話をする時間が増えたり、家内でのレクを行うことができました。しかし、時には多動者の対応に追われ、他の方の訴えに答えられないこともありましたので、他の職員の協力を得ながら柔軟な対応ができればよかったですと思います。

- ② 方針については「ご家族が気軽に立ち寄れる家を目指す。」でした。

誕生会の時には、半数のご家族の方が来所され、一緒にお祝いすることができました。その時に近況を報告させて頂くことで、安心されて帰られていました。しかし、ご家族の方だけで過ごせるスペースがなかなか設けられず、居室での面会が多かったように思えたため、次年度はスペース作りを早急に行いたいと思います。また、写真撮影がなかなかできず、アルバムを作成することができなかつたので、皆さんの素敵な写真を1枚でも多く撮影し、ご家族の方に見せたいと思います。

- ③ 「尊厳とは何か」を考えながら、今、何をしたいのか、何をしたいのかを知るため耳を傾けてきましたが、その意見等をまとめ検討する機会を設けることが難しく反省する点でした。しかし、日々の業務については、職員間で意見交換をし、業務を見直しながら一緒に過ごすことができたと思います。

- ④ 8月8日に永眠されました方で、最後まで本人らしい表情がみられ、息を引き取る際に傍で看取ることができました。とても悲しい時間ではありましたが、最後まで一緒に過ごせたことを嬉しく思います。また、8月28日に永眠されました方も、亡くなる前に、ご家族の方が傍で声を掛け、家族が持って来てくれたホームビデオを観ていました。

2人との悲しいお別れがありましたが、その時の悔いた思いを忘れずに、これからも他のご利用者に接していけたらなと思います。

## 2. 食事について

- ① 一緒に料理を作ることはできませんでしたが、頂いたふきやわらび、柿などの皮むきを手伝って頂いたことにより「穫れる時期になったんだな」「干したら美味しいな」などの感想があり、季節感を味わって頂けたと思います。

- ② あるご利用者で、水分摂取が難しいとの引き継ぎから始まりました。噛んで飲み込めるようにするため、寒天ゼリーで硬さを何度か変えながら対応し始め、また、味や食感ともに飽きてしまった時には、ポカリゼリーに変更し、その後“ゴクッ”とは飲み込まれないものの、少しずつ飲んでいることに気づき、補正水を飲んで頂けるようになりました。食事もたくさん噛むという動作がないと飲み込まないことが分ったことから、お粥ではなく常食に変更し、味をつけるとよく食べて頂けたり、食事が進まない時には、手にバナナやパンを持たせることで自力摂取に繋げ、どうしても食べて頂けない時は、補助食品で対応してきました。好きなものは何か、口をあけることが多い時間帯はいつか、一口目はどんな物から食べてもらったらいいのか等を常に話し合い、また、ご家族の方から話を聞いたことにより、経管栄養になることなく食事を摂って頂けています。

## 3. 排泄について

普段ベット上で排泄交換をさせて頂いているご利用者が多いのですが、排便の兆候が見られた際にはトイレに座って頂き、トイレで排便を済ませることで、爽快感を持って頂けたと思います。また、こまめに陰部洗浄を行うことにより、尿臭を防ぐことができたように思います。排便があった際には、臭いがフロア内にこもってしまうことが多かったので、換気などで対応してきました。

皮膚の状態観察により、早期対策が取れ、悪化の防止に繋がりました。

#### 4. 入浴について

- ① 希望に沿った入浴方法はなかなかできませんでしたが、一般浴でハンモックのように2人で対応していた方に対して、個室ではどうかとの試みをする事ができました。検討の結果、本人の拘縮の状態から機械浴になってしまいましたが、他のご利用者に対しても試みてはどうかとの考えられる機会に繋がりました。
- ② 乾燥肌の方には保湿クリームで対応することができました。

#### 5. 行事等の取り組みについて

- ① 誕生会では、ご家族の方と一緒に外出し、大好きなお寿司を食べに行くことができました。奥さんの前で少し緊張していた様子で、いつもの食欲がなかったようでしたが、とても満足されていました。また、ある方は毎日のように生まれ育った大倉に行きたいとの話が聞えてきたことから、ドライブを計画していましたが、天候などに影響され外出することができず残念でした。  
ホーム内で誕生会を開いた際には、カラオケだけではなく、職員の踊りなど、見て楽しめるものがあるといいなと感じました。
- ② レクの際には、皆さんが楽しく参加することができ、笑顔がたくさん見られ嬉しい場面が多々ありました。
- ③ 暖かい時期にはドライブや外気浴を積極的に行ってきたことにより、外出する機会が少ない方にとっては、季節を一番に感じられる時間ではないかと思いました。今後少しでも多く時間をつくり楽しんで頂きたいと思いました。

#### 6. 一年の反省

- ① 入居して日も浅い、問題行動のあった方の対応に追われながらの始まりでした。帰宅願望が強く、何度か外へ出て行かれ車で迎えに行ったり、朝から晩まで何度も棟内を歩き回り、入浴の拒否や介助に対しても拒否が強く、声を掛ける度に怒られたり叩かれたりと笑顔を見る日は殆どありませんでした。しかし、今では逆に笑顔がたくさん見られ、手招きで職員を呼んでくれたり、手を繋ぐことができるようになりました。これはきっと、なじみの関係ができ、1年間ケアに苦労しましたが、その苦労も良い経験となり、今後さらに頑張ろうという思いになりました。  
その方のために、自分がどこまでできるのか、今、何ができるのかを常に考えながら、今後のケアを見直していきたいと思います。

## 1. 生活全般について

① 家目標だった「チームワークでご利用者と共に安全に楽しく生活できる家」に沿って1年間取り組んできました。くつろぎの家から移動された方も、最初は家になじんで頂けるのか不安でしたが、看護職員との連携もあり歩行訓練を頑張って行ったりすることで、少しずつ打ち解けることができました。

また、他の方もマイペースに過ごされていました。また、ご利用者同士の大きなトラブルもなく穏やかに過ごすことができました。

② 入院されていた方が退院され、その後、少しずつ良くなっていく過程が職員にとって、やりがいと喜びになりました。特に、退院後、多動な様子が見られベッドからの転落を防ぐために、居室全体にマットを敷いたり、本人の動きを妨げないよう工夫をしたり、職員同士細やかな目配りをしながら安全に生活して頂けるよう努めてきました。床からの起き上がりや車椅子への移乗には苦勞しましたが、少しずつ以前の状態に近づいて頂けるよう諦めず日々のケアにあたり、畳からベッドに変更できるようになり、また、立ち上がりも徐々にできるようになりました。

更に、退院後は殆ど全介助での食事でしたが、今では、ムラはあるものの自力摂取ができるようになってきました。

また、職員が気をつけてきたのが声かけです。たくさん声かけをすることで、ご利用者から話しかけてきて下さるようにもなりました。毎日、少しずつの取り組みがとても大切なことだと学ぶことができました。

## 2. 食事について

① 美味しく、無理なく食べて頂けるように、その都度、食事形態の見直しを行い食べて頂けたと思います。また、体調に合わせ時間をずらすなどの対応もできたと思います。

② 家内で作るという目標を立てたまましたが、減量の方や食事制限のある方もいて、なかなか思うようにできませんでした。しかし、厨房の方と協力し、出張料理をしたところ、職員もご利用者も美味しく、そして楽しく食べることができました。

③ 退院後、介助で摂取されていた方にも、あきらめず声かけを行い、今では殆ど自力摂取ができるようになってきた方もいます。

④ 摂取量が少なく、なかなか食べて頂けない方には、曜日別にその方の好きな麺類を出して頂き、以前に比べ、今では殆ど全摂取されるようになりました。

## 3. 排泄について

① その都度、個々に合ったパットの見直しができるようになりました。

② 退院後、カテーテルが外れ、トイレ介助ができるようになった方もおりました。本人の訴えを大事にトイレ誘導を行うことで、自力排泄の嬉しさを職員も知ることができ、今後も継続していきたいと思えます。

③ 尿臭のある方も洗浄により緩和されました。

## 4. 入浴について

① 本人の希望に沿いたい、意思を大事にしたいという職員の思いが一つになり、今まで一般浴ができなかった方の他の入浴方法を可能にできました。

退院後、立ち上がりが困難で、機械浴での入浴を余儀なくされていましたが、本人からは「大きい風呂に入りたい。」という訴えがありました。そのことでケア会議を繰り



返し行い、また、本人の意欲もあり少しずつ立ち上がりも可能となったことから、本人の希望に沿うことができました。「いい湯だった。」の一言に、とても喜びを感じました。

- ② 皮膚トラブルは、乾燥防止に保湿クリーム、馬油などで対応し、緩和されたと思います。

## 5. 行事等の取り組みについて

誕生会では、昨年より多くのご家族の方に参加して頂き、中には涙を流して喜んでいたご利用者がいました。普段は、なかなかお話しできないことも、ご家族の方と一緒にゆったりと過ごして頂き、コミュニケーションも多く取れたと思います。都合によりご家族の方が来て頂けなかった時には、職員と家のご利用者で心をこめたお祝いことができました。他の家の職員の協力もあり、踊りなどを披露することで、多くの笑顔を見ることができました。今後も続けていきたいと思っています。

## 6. 一年を振り返って

- ① 全体的に大きな事故、トラブルもなく、安全に過ごすことができたと思います。
- ② いつも職員とご利用者の笑い声が聞こえていたと思います。その分、ご利用者が入院された時には、自分の家族が急にいなくなってしまう寂しさを感じ、改めて日々の生活の大切さを知ることができました。また、少しの変化にも気付けるよう、「いつもと違うのではないか」と見つめていくことも大事ことだと思いました。
- ③ ケアを行うためには、チームワークが重要なことであり、互いに声をかけ「お互いさま」という気持ちで助け合うことが、とても大切なことだと改めて痛感しました。
- ④ 居室の整理、整頓、アルバムの整理、部屋の模様替えなどがあまりできなかった。日々の忙しさの中にも時間を見つけ取り組めるようにしていきたいと思っています。
- ⑤ 言葉づかいでは、一部、強い口調で声かけをしてしまったこともあったと思う。方言でも注意が必要。ご利用者をよく知り、尊敬の気持ちを大切にし優しい声かけをできるように努力していきます。

## 1. 生活全般について

家目標でもあった「終末期の看取り介護をご家族の方と一緒にできるようにする」でした。ほほえみの家では5名のご利用者さんが永眠されました。

4月には入院中の病院で永眠された方が1名。嚥下が困難な状態でも食べることが好きな方でした。美味しそうに食べてくれた時の笑顔がとても素敵で「最期まで口から食べて頂きたかった」と思いました。

5月には家で永眠された方が1名。その日は、意志疎通がなかなか取れない中で朝の声かけに頷いてくれました。何の変わりも無かったのに急変されてしまい驚きました。食事の時、なかなか目を開けてくれず、いろいろ工夫しながらやっと目を開けて貰い食べて頂きました。食事介助の難しさ、食べる事の大切さを改めて感じました。

6月には病院で永眠された方が1名。突然体調不良にて入院されその日に永眠されました。やはり意思疎通が取れない方でしたが、耳元で大きな声で話しかけると話をしてくれるようになり、声を聞けることが楽しみになっていました。その日も笑顔で話をしてくれたことがとても嬉しかったです。お二人にはコミュニケーションの難しさを改めて教えて頂きました。

7月には2名の方永眠されました。お二人とも数か月前から看取りケアに入り、ご家族の方と一緒に看取ることができました。1名の方の最期は、ほほえみの家会議の時でした。眠ってばかりいいましたが、時々声を出し返事をしてくれた時は「今日、しゃべったんだよ」と皆で喜び話をしていました。全員揃った日を選んでくれたことにとても感謝しています。もう1名の方の最期は、ご家族の方と一緒に排泄交換をして頂きました。ご本人も嬉しかったと思います。その後、直ぐに目を閉じられてしまいました。最後に目を開けご家族の方にお別れをし、見守る中永眠されました。その姿を見た時は悲しい気持ちではなく心が穏やかになったのを今でも覚えています。「本当にありがとう」と言う気持ちで一杯でした。

お二人の頑張っている姿を見て「最期まで、痛みもなく安楽に過ごして頂きたい」と言う思いでした。「自分たちが悔いの残らない介護をしよう」そう思いながら介護職員一同ケアに取り組んできました。看取りケアができたことで、ご利用者さんと一緒に過ごせたことにとても感謝しています。心から「ありがとう」それぞれ皆さんに“生きる”ことの大切さを教えられ、一日一日、その時その時のケアがより大事だということを知ることができました。

新しく入居された方をできるだけ早く知り、信頼関係を築けるように努めました。また、個々に合ったケアをすることで、その人らしさを引き出せるようにしてきました。

行動や言動に介護職員を楽しませてくれたり、喜ばせてくれたり、とても和ませて頂きました。炬燵で一緒に過ごすことで会話も多くなってきたように思います。ご家族の方が面会に来た時には生活の様子をお知らせし、絆も深めるように努めてきました。また、面会も多くなってきたように思います。

レクリエーションに参加することで、楽しみ、他の家との交流を図り、気分転換をして頂きました。また、状態を見て居室で過ごされている方も参加することで雰囲気味わって頂くこともできました。いつもとは違うご利用者さんの表情を見ることができたことで、やりがいや喜びに繋がりました。

## 2. 食事について

食事を美味しく、満足して頂くようにその都度食事形態の見直し、他職種と連携を密

に取り工夫してきました。口から食べて貰うことを大切に個々に合わせた口腔ケアを実施し、口腔内の状態を知り、唾液を促し、且つ綺麗にしておくことで食べる意欲を引き出すことができましたと思います。

なかなか食べてくれない方には、好きな物を食べて頂くことで、少しずつ食べて頂き意欲を引き出してきました。

血糖値が不安定な方には、他職種と密に連携を取ることで健康管理に十分気をつけ、且つ、食事にも満足して頂けるように工夫してきました。特に皆さんと同じ物を食べ“食”を満足して頂き、安定した生活が送れるように意識してきました。

### 3. 排泄について

排泄パターンや皮膚の状態を知り、常にパットの見直しや皮膚トラブルを防ぐことができました。大きな成果としては、今まで自力排便ができなかった方がトイレに座ることで、自力排便を促すことができましたことと、下ズボンを着用することで冷え防止となり、尿量が減りパットを小さくでき、無駄をなくせたと思います。

### 4. 入浴について

本人の希望に添い気持ち良く入浴して頂けたと思います。入浴剤を使用することでリラックスして入浴し、皮膚の保湿もできました。季節に合った入浴剤を使用すればもっと良かったように思いました。また、特浴で入浴されている方の皮膚の保湿がなかなかできなかったように思います。

### 5. 行事の取り組みについて

誕生会は、ご家族の方と連絡を密にしたことで殆どのご家族の方に参加して頂き、多くのご家族に囲まれ和やかにお祝いすることができました。囲まれてお祝いをして頂いている時の表情はいつもと違い本当に嬉しそうでした。“家族のすごさ”を改めて感じることで、感動させられる場面も多々ありました。また、他の家のご利用者さん・介護職員・他職種の職員の協力を得、歌や踊りでお祝いすることで、ホーム全体でお祝いすることができたように思います。

ドライブや外出で気分転換を図り、楽しんで頂きました。他の家と協力し、もう少しドライブに出かけられるように計画すれば良かったように思いました。

ホームの行事・夏まつり・敬老会・運動会にご家族の方へ手紙などでお知らせし、参加して頂き一緒に楽しく過ごして頂きました。ご家族の方が来られないご利用者さんには介護職員が寄り添い過ごすことで穏やかに楽しく過ごすことができたと思います。いろいろな行事を通して元気になり、また意外な一面を見せて頂きました。これからもできるだけご家族の方に参加して頂き、楽しく過ごして頂けるような工夫をしていきたいと思えます。

### 6. 一年を振り返って

今年度のほほえみの家ではご利用者さんの入・退居、家間の異動等がありましたが、その都度、家会議などで穏やかに安心して過ごせるように、また、居心地の良い居場所づくりを考えてきました。殆ど居室で過ごされている経管栄養者の方が一日一回離床し皆さんと一緒に過ごすことで、発語があり、表情も豊になり変化が見られるようになりました。夜間帯眠れない方には日中の過ごし方を工夫し、少しでも安眠して頂くようにしました。夕方不穏な方の側にいて話をする事で安心して頂くようにしました。

ご家族の方の面会のご利用者さんにとって楽しみです。皆さん笑顔で話をされています。

した。特に、いつも眠たそうにしている方が、ご家族の方が面会に来ると表情も良く、積極的に話をしている姿が印象的でした。毎日の生活の中で、しぐさや変化を見逃さず、ご家族の方にお知らせし、少しでも多くコミュニケーションを図り信頼関係を築き、一日一日を大切に楽しく、笑顔で過ごして頂くと共に、これからも面会に来やすい環境づくりをして行きたいと思います。

異動等もあり、介護職員同士の連携や統一した個別ケアをすることの難しさを感じることもありました。ひとり一人の個性があり、色々な捉え方もあり、同じように伝わらないことがありましたが、プライバシーを一番に考え“自分だったら？・・自分の家族だったら？・・どんなケアをして欲しいか？・・どんな言葉をかけて欲しいか？・・を常に考えてケアにあたってきました。“まごころ”を込めて接することが本当に大切なことだと思いました。介護職員が一丸となって協力し、信頼し合い、楽しく仕事ができるようにして行きたいと思います。

## 1. 生活全般について

(1) 家目標の「ご利用者、家族と共にやすらげる居心地良い空間・環境・雰囲気づくりに努め一緒に時間を共有する」ことについて

- ① 日々の生活を写真に残し、ご家族の方が見えた時、わずかな時間でしたが一緒に見て生活の様子を伝えることができました。  
また、都合によりお越し頂けないご家族の方へも、手紙に写真を載せ説明を添え、生活の様子を分かるように配慮できたと思います。
- ② 大勢で来られたご家族の方には、家族宿泊室を利用して頂き、家族だけの時を過ごせる環境もセッティングでき良かった。
- ③ 全体のレクリエーションには、できるだけ参加して頂き、楽しみを共有することに努めてきたところ、生き生きとした表情を見ることができました。
- ④ 外気浴をしながらのお茶会、また、ショッピングや外食に4名の方が出掛け、特に回転寿司屋では思い思いに好きな物を食べ、その後、嗜好品の買物を楽しまれ「また行くべない」と満足して頂きました。
- ⑤ 釣りが趣味であるご利用者と、それに付き合った別のご利用者が、職員と一緒に厨房手作りのおかずと、ゆとりの家手作りの混ぜご飯のおにぎりを持って「あいの沢」に釣りに出掛けました。好きな物に夢中になっている時の表情は、目がキラキラ輝いていました。3時間くらいではありましたが、帰る間に1匹釣れた時の嬉しい表情が印象的でした。早速、持ち帰り、から揚げにし少しずつご賞味しました。寒い時期になってしまったことから、次年度はもう少し早めに計画を立て温かい時期に行ける様にしたいと思います。
- ⑥ 塗り絵を試みたところ、好評で、何名かの方は何枚も挑戦し、21年度の1年間のカレンダー付き塗り絵を完成することができました。でき上がった物をご自分のお部屋に飾る方や、フロアにも合作のカレンダーを飾りました。また、家の表札作りもされ完成した達成感と喜びを味わうことができたようでした。
- ⑦ その他、家内でのレクでは、宝釣り、カルタ取り、生オケ、カラオケ、旬の食材での料理など、毎日とはいきませんが、わずかな時間でも職員のユニークな発想や特技、趣味などを生かし、共に楽しみながら、生き生きとした生活を送って頂けたと思います。

(2) 方針の「ゆっくりと一緒にお茶をしながら、ひとり一人の要望・不満に耳を傾け、今本人がして欲しいことや楽しみを受け入れ共感する」について

- ① 業務に追われ、なかなかゆっくりとお茶をしながら、その人の思いを知るまではいきませんでした。一部の方が不満を溜め込み、ある日、爆発したということもあり、先入観で見えてはいけない。また、平等に接しなければならないと反省させられました。

## 2. 食事について

- ① 状態変化に合わせ、随時食事形態を見直すことができたが、嚥下困難な方でも、お粥だけでは満足しない時もあり、看護職員との連携により、少しでも常食を添えることで満足されることもありました。また、副食ではキザミ対応ですが、常食の方のおかずを見て自分のとは違うと納得されない時もあり、圧力鍋で調理された、煮物等、少し形のある物を添えますと満足して頂きました。見た目も大切だと改めて感じさせられました。
- ② 共に、実際に手で触れて五感を刺激しながら、旬の食材を調理し食べることができ

ました。また、ご家族の方が「ふきや里芋の茎」を持って来て下さり、それを目の前で調理することで生活観が見えて良かった。

今後も体調変化に伴い、柔軟に対応し、個々の状態に合った、嚥下し易い姿勢を見出し、いつまでも口から安全に美味しく摂取できるケアに努めたいと思います。

### 3. 排泄について

- ① トイレ汚してしまう箇所に布を準備して置き、随時掃除をしたり、また、お部屋で安楽尿期を使用されている方の換気をまめにしたりと、プライバシーにも配慮しつつ、消臭に努めてきたところ、以前ほどの臭いはなくなりました。

自立支援も大切にしていることから、自力で排泄され衣類を汚される方も多く見られるようになってきたので、尊厳に配慮しつつ今後も随時こまめな交換を継続していく。

- ② ヨーグルトを食べるようになってから、便通が良くなった方も数名みられました。

### 3. 入浴面について

- ① シャワー浴利用の方の配慮として、少しでも足から温まって頂けるよう、シャワーと同時に入浴剤を入れた容器で足浴も行なったところ、より満足して頂けた。乾燥時期には、保湿クリームの対応ができた。

- ② 体調変化に伴い、入浴日の変更を、各家への連絡ミスから迷惑をかけてしまったこともあり、今後は連絡を密にしたいと思います。

### 4. 行事等の取り組みについて

- ① 今年度は、誕生会、行事の参加の呼びかけを積極的に行なったことにより、誕生日では、自宅へ帰られた方が3名おりました。なかには、いつかは一度家に連れて帰りたと思っていたが母の現状を見ると連れて行っても、自分でどのようにしたら良いか不安だったと話されており、こちらから食事等の準備する物等を事前に説明し、安心して帰られるように配慮したところ、「色々教えて頂いて良かった、かあちゃんのこと連れて帰ることができて良かった。」と喜んで下さいました。少しでも、お役に立て良かったと思います。

- ② あるご利用者の方は、家族と外出され自宅付近までドライブをしてから戻って来られ家で誕生会を行いました。いつも冗談ばかり言っていますが、その時は特別な日なのだ意識されたのか、最後にマイクを持ちしっかりとお礼の言葉を述べて下さいました。また、ご利用者同士で、些細なことからトラブルとなる事もありますが、誕生会の時は、ひとり一人しっかりと誕生者へお祝いを述べたり、毎回のように扇子を持ち踊って下さる方や、歌でお祝いをされる方も多く、心温かい一面を垣間見ることができ感動しました。

誕生会に参加された殆どのご家族の方に「このような温かい誕生会をして頂いて感激しました。」との言葉も頂き更に嬉しく思いました。

- ③ ある方が誕生日に自宅へ帰り、家の中へ入りると「我が家だ」とほっとされたのか、涙ぐまれ喜びをかみしめて来られた様でした。また、自宅では奥さんの手作り料理で待っていて下さいました。

数名ではありますが、ご家族や本人の思いを少しでも叶えることができ、私達も沢山の感動を頂いた1年でした。

- ④ 誕生会でホーム（家）に来て下さったご家族は7家族と、年々参加が多くなってきていることは大変喜ばしいことだと思います。

また、誕生会や行事は皆さんのご協力の下、盛り上げることができました。改めてチームワークが大切だと痛感しました。

一方、ご家族の方が来られない方に対しては、手紙やプレゼントなどを贈ってもらえるような配慮も必要だったと思いました。今後は、ご家族の事情も踏まえながら、なかなか来られないご家族の方と密に連絡を取り、ご理解を頂きながら、絆を深めて頂けるよう配慮に努めたいと思います。

## 5. 一年を振り返っての感想

### ① 反省として…

一年を振り返って、ゆとりの家のご利用者も多いため、職員がケアに追われる中、気持ちに余裕がなくなり、ついつい荒い口調になることもあり、尊厳に欠けた言葉づかいをしてしまったこともありましたので、感情のコントロールができるよう努力したいと思います。

### ② 感想として…

中でも心に残ったことは、終末期であった方が体調の良い時期に、自宅へ帰ることができ、ご本人の言葉で「いいたてホームに来る時に、もう家には帰らないと心に決めてきたが、連れて行ってもらって本当に良かった、感謝するよ、有り難う。」と言って頂き、微力ながら心の奥の思いを叶えて上げられたことが、私達の心の支えになりました。

しかし、息を引き取られる時に、ずっと泊まっていた夫の身体に配慮し、帰って頂いたところで亡くなられたことについては、果たしてこれで良かったのか…と落ち込んだこともありましたが、最期まで家庭と同じように、家族が寄り添うことができる環境に配慮できたことは良かったと思いました。今後も、このような自然な光景が少しでも多く見られるよう支援をしていきたいと思います。

また、今の状態を維持していけるよう工夫し、ケアに努めて行きたいと思います。

## 1. 生活全般について

家では3名のご利用者が退去され、新たに3名の方が入居されました。

3ヶ月程入院されたご利用者を、皆で何とか本人らしく過ごして頂こうとスタッフ一同頑張ってお世話してきましたが9月突然急変し永眠する。

シーンと静まりかえっているところへ、新しく入居者された方がとても明るく、ひだまりの家を楽しい生活の場へと変化させてくれました。

また、ある入居者は、あんなに食べることが好きだったのに、食べてももどしてしまい入院となる。暫くしてから退院となったが、調子の良い日は看護職員と協力し、口から食べて頂くことを忘れないよう努めてきた。ベットごとフロアに移動し過ごされていても介護・看護職員が通るたびに声をかけてくれ、最後まで良い表情を見せてくれましたが12月にご家族に見守られ永眠されました。息子さんの「かあーちゃあーん」といった最後の言葉がとても印象に残りました。ご家族の方は2週間居室に泊まり一緒に過ごして頂いたことで本人もとても喜んでくれたのではないかと考えています。

皆で余韻に浸っている間もなく、次の方が入居となる。

ショートステイ利用時の時と違い、とても朗らかで更に家内が明るくなり、他の方とすぐ意気投合。職員も2人の明るさにとても癒され救われた思いで毎日を過ごさせて頂きました。

入退院を何度か繰り返していた方が、熱を出てしまい再度入院され、今でも「おう」と呼ぶ声が聞こえるような感じがします。本人らしく生きること、それに応えるようなケアとは？と、思い知らされる最後だったのではないかと感じています。

また、あるご方のショート利用中は元気でいましたが、症状の進行にて直接的ケアが必要となって入居される。あの頃の本人を思い出して頂こうと声掛けやジェスチャーを利用し、ケアを行っていく中で、本人が時々頷いてくれると、嬉しく皆で喜び励ましました。

ご家族の方との繋がりをもって頂こうと、共同作業のちぎり絵を準備しましたが、忙しい時間の合間の面会に、思うように進まずスタッフとご利用者が行なうことが多かったようです。今後もゆっくりと時間をかけて仕上げて行きたいと思えます。

ティータイムにパブリックスペースを活用し、音楽を聴いたり天気の良い日は外気浴をしたり、桜の花見を兼ねたドライブを行ったりと季節感を感じて頂くよう皆で協力し、喜んで頂くことができたと思えます。寒くなってフロアに炬燵を2箇所セットし、ご利用者に合った過ごし方をして頂き、ゆったりと穏やかに過ごして頂けたのではないかと考えています。

## 2. 食事について

目標であったおやつ作りは、あまりできませんでしたが、食事の間は唯一ゆっくりと食事をしながら会話をすることができたと思えます。また、常に食事形態を見直すことにより、食の楽しみを感じて頂けたのではないかと考えています。

出張料理の日には、皆さん楽しく美味しそうに食べられ普段あまり食の進まない方も全量食べられたとスタッフ皆なで喜び感動しました。

## 3. 排泄について

排泄パターンを知り、随時パットの見直しと交換回数を増やしたことにより、皮膚トラブルを未然に防ぐことができた。また、排泄用品の勉強会に参加したことでスタッフ



の知識向上に繋がり皮膚トラブルを防ぐことができたと思います。現在は皮膚のトラブル者もなく快適に過ごして頂いています。

#### 4. 入浴について

入浴委員会の体験後の情報を聞き、私たちは家内のお風呂で個々にあった安全で安楽な入浴方法の統一を目指し入浴体験をしました。結果、個別浴槽は負担が少なくゆったりと入って頂けることを知り、更に全員のご利用者をどのようにして入れられるかを勉強することで、知識向上に努め、他の家の職員と協力しながら、現在では全員が個別浴槽で入浴しています。

入浴の間、表情や状態の把握ができ、会話時の笑顔や気持ちよさそうな顔を多く見ることができ、私たちも楽しくケアすることができました。現在、入浴直前まで抵抗される方に困難しており、気持ちが落ちついている午前に入って頂き様子を見ているところです。どのように対応したらスムーズにお風呂に入って頂けるかが今後の課題となっています。

#### 5. 行事等の取り組みについて

誕生会をご家族の方と一緒に過ごして頂くという今年度のホームの計画に、家族会で来所された息子さんに思い切って話した結果、快く受け入れて頂き、第一号として自宅へ帰られた方が、家に戻ってくるため職員が自宅へ迎えに行くと、普段と違う本人の顔を見ることができたと感じてくれた時スタッフ一同涙ぐみ喜びました。

短い時間でしたが自宅で過ごされた方が、近所の人が大好物の南瓜の煮つけを持参してくれ、美味しそうに食べながら会話されたことを家族から聞いた時、無理を承知で、外出できるようお願いして良かったなと思いました。

当初より自宅で過ごして頂きたいとのご家族の希望があり、ご家族の方の対応で帰るときの顔は普段みられない良い表情をされていました。プレゼントを頂き疲れた様子も見せず笑顔で戻ってこられました。

あるご利用者の誕生会のときは、家内で行ないましたが、食べることができずどのようにして行なおうかと戸惑いましたが、ご利用者全員と握手しお祝いの言葉を頂くと本人も涙ぐみ感動していました。

息子さん夫婦に囲まれぼたもちケーキでお祝いされたご利用者。背筋を伸ばしシャキットされ淡々と会話され、とても明るいカラーが出ていました。

横浜に居る息子さんに連絡がとれず戸惑ってしまいましたが、誕生日当日知人とお孫さんが着てくれ嬉しくて涙ぐんでいました。甘い物が大好きなのでプリンでお祝いし、お孫さんの晴れ着姿と上手な歌でお祝いをしてくれました。

夏まつり、ご利用者とスタッフ全員で仮装し大いに盛り上がりました。ご家族の方も普段と違う姿をみて皆で笑っていました。評価としては、準優勝を頂き家に帰ってきて再度盛り上がり皆で楽しい時を過ごしました。

運動会では、どうみてもかなわない家対抗の玉入れで、最後にミニパンを籠に入れることで皆からの笑いと勝利を頂き大いに盛り上がりました。

敬老会では、家からの出し物で皆でできるものは何がいいか、なかなか思いつきませんでした。ご家族の方とご利用者が触れ合うことができるものが良いと思い「肩たたき」を選びました。会場の人達に歌って頂きながら、ご家族の方に肩たたきを行なって頂いた。今年の行事は、沢山のご家族の方に参加して頂いたことにより、スタッフ一同ご家族の方との絆を強く感じる事ができたと思います。

## 6. 一年を振り返って

一年間色々な取り組みに意見を出し合い、試行錯誤し努力を惜しまず随時改善してきました。結果、ひだまりの家らしいカラーを出すことができたと思います。ご家族の面会も多くご利用者の情報を聞くことができ、それをステップに色々なことに対応しご家族の方との繋がり、そのことに対してのスタッフの関わりが大事なことだなと感じ取りました。個別ケアとしては、まだまだ接しかたが足りないと思いますが、業務優先でなく「いま」を一番に考え、本当の家族のように接していけるよう、今後も支援していきたいと思います。

## 1. 生活全般について

- ・ 自分のできることは、それぞれ手伝って頂いています。例えば、モップ掛け、夏場は植物等に水掛け、洗濯干しや洗濯たたみ、お絞り丸め、新聞たたみ等です。一回の声掛けではなかなか理解できず、数回声掛けする時があります。職員がサッと業務として済ませてしまえば早いのですが、家目標である「ご自宅での生活と変わらない生活」をして頂くために、自分のできることを生活の一部として手伝って頂きました。
- ・ テレビ台の高さを上げたことにより、炬燵が邪魔にならず皆さん良く見えたようです。また、テレビの傍に炬燵があることで自然に炬燵の周りに集まりました。（冬は暖かな炬燵で暖をとって頂きました。）自然に会話も弾んだり、他の方が後から炬燵の所に行くと「早く、入れ」「あったかいから」と気遣う温かい言葉や思いやりのある言葉をかける様子も見られました。
- ・ 増築工事が始まり、中庭の植物をフロアに移動しました。外の景色が何も見えなくなったくつろぎの家にとってはとても窮屈でしたが、フロアに植物があることによりホッと一息でる空間を作ることができました。そして、面会の方々にも「すごい、植物だね」と関心が植物の方に向かれることにより、フロアの窮屈さを感じさせることなく緩和できたと思います。

## 2. 食事について

- ・ 個々の食事時間や形態により、その方に合った食事を提供することができました。
- ・ ご家族の方や職員が持ってきた食材を使い「季節感」「家庭のぬくもり」「昔懐かしい料理」を味わって頂きました。
- ・ 食前体操は、食前になかなか行うことができませんでした。レクリエーションや時間に余裕のある時に取り入れることができれば良かったと思いました。

## 3. 排泄について

- ・ 季節やご利用者の状態を把握し、パットサイズをその都度変更し個々に合った排泄時間やパット使用することにより不快感の軽減に努めることができたと思います。

## 4. 入浴について

- ・ 個浴は、プライバシーが守られているためゆったりと入浴されています。また、歌を唄ってくつろいでいる方もおります。
- ・ 4月の取り組み時点では、特浴者4名おりましたが、家（居室）の移動の方1名、身体負担軽減のため機械浴から個浴に3名の方が変更されました。変更された3名の方は、他の家の遅番の協力を得て二人対応にて入浴施行しています。

## 5. 行事等の取り組みについて

### ①お誕生会について

- ・ 今年度目標である「ご家族にも声掛けをして、思い出に残るように工夫をし、家全体でお祝いをする」は、各担当がご家族の方と連絡を密にとってきました。1件の方のご家族以外（都合により急遽来所できませんでした。）は、全員のご家族がお祝いに駆けつけて頂きました。今まで、「仕事で忙しくてなかなか行けない」と言われていたご家族の方も、本当に「5分」の参加でしたが、ご利用者の表情はとても嬉しそうでした。

また、誕生日を早めてお祝いをした方もおりました。親を想う気持ちが、他のご利用者や家職員に伝わり、涙・涙のお誕生会となりました。

ご家族と一緒に過ごす誕生会は、特別の日となり誕生会を通して絆が深まった思い出に残る誕生会をすることができました。

- ・ 職員の協力もあり、休日の時や遅番の時は早めに出勤して自主的に誕生会の準備手伝いをして頂きました。また、積極的に踊りやカラオケ、生オケ等で雰囲気盛り上げて頂き、とても賑やかな誕生会をすることができました。

本当に、職員4人もご利用者と一緒に記念撮影することができ、職員にとっても一人ひとり思い出に残る誕生会だったと思います。

## ②「家」の行事

- ・ 4月の花見から始まり、7月の流しそうめん、9月の秋刀魚バーベキュー、11月のほうとう作り、2月の恵方巻き作り等をしてきました。ご利用者と一緒に何かすることは大変でした。でも、くつろぎの家職員の団結力・協力・協調性により、とても楽しく行事を行って来ました。そして「職員が楽しむ」ことも忘れていなかったようです。他の家との行事も楽しいですが「家」で楽しむ行事もコミュニケーションを図るためには大事なことだと思いました。

## ③「他のユニット」との行事

- ・ 8月の暑い夏中庭で花火、12月の年忘れに忘年会等、他ユニットと協力しご利用者の喜ぶ「笑顔」を見たいと思い実施しました。花火では、「孫」と一緒にしたことを思い出された方、睨に懐かしい表情が伺われた方がおりました。移動や準備に費やす時間は多かったのですが、無邪気な表情を見ることができ嬉しい思い出でした。また、他の家の方と交流を深めることもでき良かったと思います。

## ④「西棟」の行事

- ・ 6月の柏餅づくり、7月の流しそうめん、8月の岩魚バーベキュー、12月の蕎麦打ち等は全ユニットの協力により実施しました。職員同士も自然に話し合いができ準備等を行うことができました。また、ボランティアの方々の協力は大変助かり皆さんもとても満足されていました。

## 6. 一年を振り返って

- ・ 病に伏せられますと、「あれ、ここの人は」と尋ねて心配で様子を見に行かれたり、ご家族の方に声を掛けたりと、本当に家族と一緒にだと感じさせられました。お別れ会でも、いつも一緒に過ごしていた方であることが分かれると「涙」を流された方もおり、本当に一緒に暮らす空間は大事であると痛感させられました。また、職員もご家族とコミュニケーションを十分にとることができご家族と触れ合うこともできました。
- ・ 体調不良者の方が現在もおりますが、ご家族の方とコミュニケーションを密にし、「ご家族でないといけないこと」「悔いのないケア」「職員の報・連・相」により職員間の連携を図っています。
- ・ 増築に伴い中庭の工事が始まり、家フロアでは音がうるさく、太陽の光が入らずに大変な生活でした。ストレスがたまらないように、時々、昼食・ティータイムをすずらんホールにて召し上がって頂きました。外の景色を眺めながらのお食事は皆さん、大変喜ばれ、ゆっくりと召しあがっていました。また、冬場暖房が故障のためフロアも寒かったのですが、ストーブを使用することにより煮物をストーブの上で煮たりし家庭的な雰囲気を味わうことができました。

## 1. 生活全般について

- ・ 行事、レク、誕生会等皆さん楽しく参加して頂き、日常生活においても変わりなく、ご利用者や職員にも多くの笑顔が見られ、温かみのある家作りができたと思います。また、季節ごとの花を絶やすことなく飾り、家全体が華やかになり、目でも楽しまれています。
- ・ 居室で過ごされている方に対して、見守り、声かけ、身体に多く触れ合うことにより体調の変化等、見逃さないように努め、看護職員、栄養士との連携をとり、よりよいケアや支援をできるよう努めてきました。
- ・ ホームでの生活状況が分かるように、普段のありのままの様子を多く写真に撮り、アルバムに残す同時に、どうしても来所できないご家族のために、手紙と一緒に生活記録を同封する等、今後ご家族との繋がりを大事にしていきたいと思います。  
普段寝たきりの方が、トイレに座っての排泄や、入浴（個浴）されている様子をみられ、自分の家ではとてもできないことだと大変感激されて帰られました。

## 2. 食事

- ・ 個々の食事形態を理解し、その人にあった食事を提供することができました。また、食前体操や食後の口腔ケアを行ったことにより、口腔内の清潔保持に繋がり口臭なども軽減し残食も少なくなりました。  
普段ソフト食の方も、工夫をすれば常食でも対応して召し上がって頂くことができ、食べることであったとの満足感を味わえたと思います。
- ・ 旬の食材や季節の食材を利用し、昔ながらの料理や、おやつ作り等、一緒に楽しみ季節感を味わって頂けたと思います。

## 3. 入浴

- ・ 個々にあった入浴を検討し、負担のかからないよう無理をせず、ゆったりとした入浴を行うことができました。また、入浴剤を使用し温泉気分にあびた入浴される方もおられました。
- ・ 特浴で入浴されていた方も個浴に変更し、入浴して頂いたところ、ゆったりとお湯に浸かることができ、満足そうな表情が見られとても良かったと思いました。  
体調不良者も二人対応にて入浴することにより、負担軽減を図ることができました。

## 4. 排泄

- ・ 個々にあったパットの使用や陰部洗浄等を行うことにより、尿、便臭等緩和され不快感を与えないように努めてきました。また、できるだけトイレに座って排泄ができる喜び（爽快感）を促すことに努めてきました。
- ・ 薬に頼らず、朝食前にヨーグルトを摂取して頂き、自力排便を促し効果の現れてきている方もおられます。

## 5. 行事等の取り組みについて

- ・ 出張料理では、各家に出向いて頂き、目の前で出来上がるのを楽しみに待っておられ、食もいつもより進まれているようです。
- ・ 誕生会では、ご家族の参加や自宅に帰られたり、また、皆さんと一緒に祝いされたり、他ユニットからの余興の出前があったりと楽しく行うことができました。

- ・ 他ユニットとの交流会（忘年会）も実施してます。これからも、自分の家にこだわらず、他ユニットとの交流等、楽しんで参加して頂けるように取り組んでいきたいと思いをします。

## 6. 一年を振り返って

- ・ ご家族の方とスタッフとの連携を図るために、日々の生活記録ノートを活用することで理解を得ることができました。
- ・ 突然の別れを通じて、日々の関わりがいかに大事か、悔いのないケアをどう行っていくかを痛感させられました。
- ・ 前庭の畑にて、野菜作りを楽しみました。種まきから収穫まで行い、家で調理し味わいました。特にさつまいも掘りは大好評でした。「でっかいなー、何個も取れたよ」等と大喜びしていました。また、鍬を持って頂いたところ、一生懸命畑を耕し、生き生きとしたその姿や表情がとてもよく心に残りました。

現在の状況に甘んじることなく、日々変わる方に対しての「個別ケア、その人らしいケア」を心がけて支援して行きたいと思いをします。

年間述べ利用者数	2,578名	年間新規利用者	23名
1日平均利用者数	7.1名		

## 1. 生活全般について

利用前日には、担当ケアマネ・看護職員・栄養士・相談員・主任・副主任・介護職員が参加し、ご家庭での生活状況や健康状態・本人とご家族の意向を確認し合いながら検討を行ってきました。新規ご利用者については、事前に担当職員の実態調査での報告を基に、利用期間中のケアについて話し合いの場を設けてきました。

「在宅生活の延長」を意識し、施設利用であっても自宅での生活と同じように、自分らしい生活のリズムを崩されることなく、安心して落ち着いた生活をして頂けるように配慮してきました。また、利用中に検討内容と異なる状況時の対応として、在介・看護職員に繋ぎ迅速な対応を心がけてきました。

しかし、環境の変化による「家に帰りたい」との思いから、徘徊・不穏・不眠状態になられる方に対してのケアは特に難しく、常に考えさせられることが多かったと感じています。

また、シフト上で他の家の職員が業務に就く場合があり、ケアや業務遂行上での統一や連携が困難な時もあり、ご迷惑をおかけすることがあったため反省と十分な注意が必要であったと感じました。

ご利用者の中には、対応困難な要望や、「自己主張？」を全面的に出される方もいましたが、その「自己主張」を、敢えて自己主張と捉えず、本人の「ニーズ」と解釈し、いかにしてそのニーズに応えることができるかと言うことをケア会議の場でじっくり話し合うべきであったと思いました。

ご利用者間の些細なトラブル（テーブル席の場所・テレビの位置や見たい番組・居室位置・マッサージ機の順番・食事中のマナー等）により不穏状態になられる方のメンタルケアの難しさを痛感しました。介護職員が事前に配慮することで、最小限度に抑えられることができたのかもしれないと思っています。

ご利用者やご家族の方がどのような状況でショートステイを利用されたとしても、介護職員の尺度で、生活を解釈してしまうことは避けなければならないことである。在介との情報交換を今以上に密にしていくことと、ご家族の方が安心してお任せして下さるようなケアを提供できる施設・介護職員に成長しなければと考えます。

## 2. 食事について

在介からの連絡票を基に個別の対応ができていたと思います。その日の状態やご希望に応じて、厨房の協力を頂きながら柔軟な対応することができました。

食器・箸・湯のみ茶碗・トレー等を購入し給食イメージからの脱却と同時に、「お客様」を意識した対応を考えてきました。食器等は消耗品であるため定期的な買い替えを行う必要があったが、後回しになってしまったことが反省点。

手作りおやつが好評で、介護職員が趣向を凝らし喜んで頂けるおやつ作りができたと思います。また、朝食時のヨーグルトも好んで召上がって頂き、長期ご利用される方や、定期的に利用される方にはお通じの改善にも繋がっていたと感じました。

## 3. 排泄について

自立支援に向けてのパット外しや、トイレでの排泄を試みる必要があると思われる

ものの、在宅介護の延長と継続を考えると、本人の意思を尊重しつつ、今後の家族の介護負担にならないためのケアにも重点を置くことに着目し対応にあたってきました。

利用期間中の状況をお知らせして、ご利用者のケアのみならず介護職員の介護負担の軽減が図れるように心がけてきました。また、スキントラブルの場合は看護職員に繋ぎ支持の基、悪化を防ぐことに留意してきました。

#### 4. 入浴について

機械浴・個別浴の希望を伺い、安全に、安心して気持ちよく入浴して頂くことを第一に対応してきました。利用期間によって入浴回数が異なるが、入浴がもたらすリラックス効果を活かし喜んで頂けるよう、また、日曜日も入浴日とし、柔軟な対応に心がけてきました。

4ユニット連携しながらの入浴介助となっているため、入浴回数を増やすことは非常に難しい状況にあるため、引き続き検討事項である。

#### 5. 行事等の取り組みについて

行事等がある毎に、ご利用者さんにお知らせし参加の有無を伺い、ご本人の意思を尊重しながら参加の呼びかけを行ってきました。気分転換を図ることや、ホームならではの行事に参加することで「楽しかった。」との声を数多く聞くこともできました。

#### 6. 一年を振り返って

年間を通して居室選定の難しさを感じています。トイレの向きや認知症の方の状況を考慮すること、新規ご利用者の状況等。定期利用の方がなるべく使い慣れた居室であることや、居室で臥床時間が長い方は窓から眺められる景色等を配慮したり、また、それが申し込み順であったりと。ご利用者にご不満を抱かれてしまうこともありました。

今年度は増床工事に伴い、窓にはシートが張られ、外の景色を見ることも、暗く騒音に悩まされる期間があり大変ご迷惑をお掛けしたと思います。

施設の今年度の目標でもあった言葉遣いについては、時として不愉快な思いや、誤解を生じてしまったケースがありました。その都度、介護職員同士の話し合いと、上司への相談を行いながら信頼回復に努めてきましたが、更なる配慮が必要であり、ケースに応じた勉強会を必要と感じました。また、事例を記述しておくことも必要とだと思えます。

セミパブリックスペースを、「洗濯物をたたむ場所」化にせず、「くつろげる場所」として、ご利用者に応じた視点で設えを工夫して行きたいと思えます。

#### 7. その他

入退居時の荷物確認には、細心の注意を払っているにも拘わらず、確認ミスや返却ミスがあり紛失した場合もあった。

〈原因として〉

- ① 衣類にしっかりとした名前の明記がされていない。（ご利用者に了解を得て名前を書かせて頂くことも考慮）
- ② 職員のうっかりミス（入退居に追われる時など）
- ③ 洗濯・乾燥時に他のご利用者さんの衣類と混ざってしまう。
- ④ シフト上、他の職員が入れ替わっての対応時
- ⑤ ご利用者同士の衣類の交換など

〈改善策として〉



- ① 名前の明記をお願いします
- ② 忙しいことを理由とせず、確実に確認し対応する
- ③ 他のご利用者・入居者の衣類と一緒にしない
- ④ 職員同士お互いに確認できるようにする
- ⑤ ご利用者の言動に注意をする

※ 返却ミスや紛失してしまった場合の対応として、先ず上司に報告。ご利用者・ご家族の方に状況説明のための連絡。今後の対応にご理解頂き、不信感と不愉快な思いをお掛けしないように丁寧で迅速な対応に心がける。